

交流の輪

6月の末に、学校支援本部の皆さんと地域の皆さんとの交流と協力のもと、校庭周り、プランターに植えたひまわりの種から芽が出て始めました。日照時間が短かったため、控えめな成長ですが、気温上昇とともに勢い付きはじめました。

7月11日、清瀬市の“社会を明るくする運動”の一環として、『きよせひまわりコンサート』が開催されました。清瀬中の生徒会の3人が総合司会

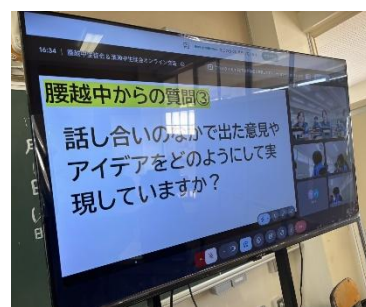


を務めたのです。緊張しているとは思えない、観客を見つめ、視界 良好で滑らかなトークを武器に会場の皆さんと交流しました。本校では“伝える力”の育成に取り組んでいます。その力を、校外の場面で発揮することができました。生徒がひまわりコンサートの司会をするのは、初めての試み!初代司会と歴史に名を刻みました!!

コンサートと言えば、1年生は、日本音楽集団の石井さん(箏・十七絃)、田野村さん(尺八)、藤高さん(琵琶)を演者にお迎えして「子供のための伝統文化・芸能体験事業～和楽器のいろいろ～」に参加しました。世の中に流れる音楽や生徒が聴く音楽は、洋楽器で構成されていることがほとんどです。和楽器のみで演奏するコンサートに参加したことは無いでしょう。和楽器の奏でる音色と心の交流は、日本文化を見つめ直す貴重な機会となりました。



14日には、鎌倉市立腰越(こしごえ)中学校の生徒会と他県という 格子を越えてオンラインにて交流をもちました。本校は2年前から文化や環境の違う土地で生活する他校の生徒との交流を行っています。今回は、江の島・海近くの神奈川県和学校と交流です。清中は朝学活の時間を使ったグループエンカウンター他、腰越中は地域を巻き込んだ駅伝大会等についてお互いに取り組んでいることの紹介から始まりました。その後、意見交換をしました。互いに参考になる部分がありました。



「尺八は、同じ指使いでも送り込む息の圧力、スピード、角度を変えることで、音程や音色を変化させられる。強く吹けば鋭く張りのある音に、柔らかく吹けば丸みのある音になり、さらに息の当て方を調節して1オクターブ上の音を出すことも可能。」と田野村さんが説明してくれました。和楽器の奥深さを知りました。

地域との交流や他校との交流は、想いの圧力やスピード、角度で絆の深まり方は変わります。声のかけ方を考えれば、ひとつ上のつながりを創り出すことも可能です。

1学期の活動を通して、様々な交流の輪がきずかれています。